

議会広報常任委員会・議会運営委員会合同視察報告

議会広報常任委員会及び議会運営委員会は、去る10月18日から19日までの2日間、鳥取県北栄町及び同県大山町を訪問し、次のとおり視察を実施しました。

○ 視 察 日

平成28年10月18日（火）及び19日（水）

○ 視察地及び視察目的

1 鳥取県北栄町

- ① 議会改革の取り組みについて
- ② 住民参加について

2 鳥取県大山町

- ① 議会改革について
- ② 議会だよりについて

○ 視 察 者

議会広報常任委員会 窪田美樹委員長、石岡実成副委員長、横山すみ子委員、鈴木道子委員、飯山直樹委員、山田由美委員、畑中由喜子委員、待寺真司委員、笠原俊一委員

議会運営委員会 畑中由喜子委員長（重）、土佐洋子副委員長、金崎ひさ委員、鈴木道子委員（重）、山田由美委員（重）、窪田美樹委員（重）、伊東委員

オブザーバー 近藤昇一議長

事務局随員 矢嶋秀明局長、永井秀子局長補佐

1 北栄町視察の概要（10月18日）

（1）北栄町の概要

北栄町は、鳥取県の中部に位置し、面積は56.94 km²、人口15,444人、5,305世帯（平成28年10月1日）の町である。平成17年10月に北条町と大栄町が合併し北栄町になった。旧大栄町は『名探偵コナン』の原作者である青山剛昌の出身地であり、町内には同氏の記念館やコナンのオブジェがあるなど「コナンの里」構想での町おこしを行

っている。また、鳥取県内でも有数な農業の町で、北に広がる砂丘地帯で特産の長芋、ラッキョウ、葡萄を栽培し、特産品として地元産の葡萄で造られる北条ワインがある。南の丘陵地帯では全国ブランドの大栄スイカが生産されている。さらに海岸線沿いに循環型社会のシンボルとして、9基の風車を建設し、自然エネルギーや省エネルギーに取り組む環境にやさしい町づくりを行っている。

(2) 視察テーマ「議会改革の取り組みについて」

・議員間討議

平成27年9月定例議会において、「一般会計補正予算に対する修正動議」について討議を求める動議が提出された。その際、議長は「今回提出されました議会基本条例第10条には、『各議員が自由かつ達な討議により町民に説明責任を十分果たさなければならない。』と記載されております。これまでも、十分とは言えなくても議論は重ねてきておりますが、更なる熟議を重ねることをお願いし、私は北栄町議会基本条例第10条の規定に基づく討議を行うべきと決定いたします。」とし、本会議において、議員間討議が行われることが決定された。北栄町議会では、初の試みとなった。

なお、議員間討議に係る規程、要綱等はなく、議長の判断で決定されたとのこと。

(3) 視察テーマ「住民参加について」

・議会報告会（出前座談会）

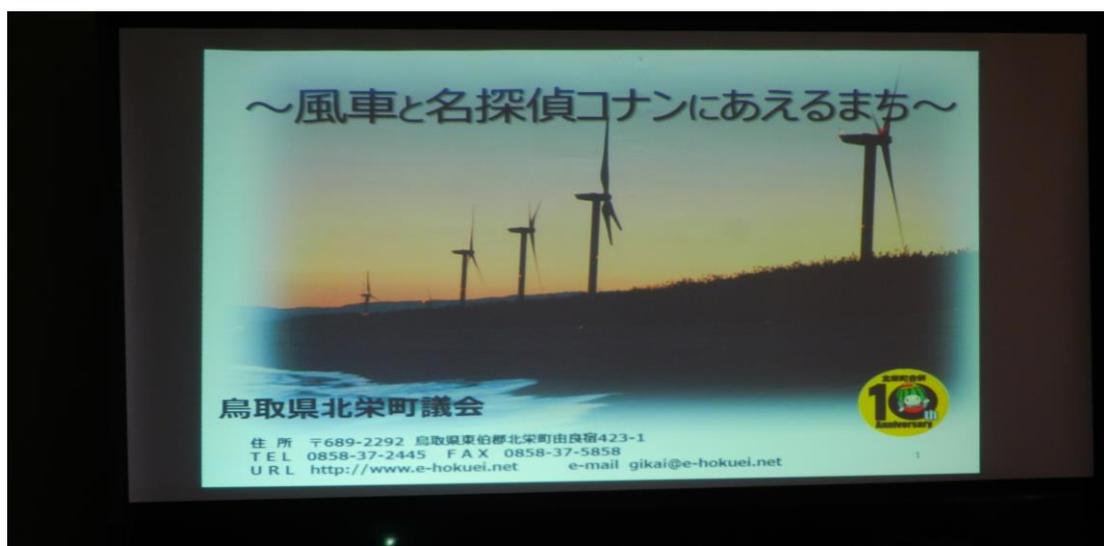
北栄町議会では、住民団体のもとへ直接出向き、議会の活動を報告するとともに、住民の意見を聞き、まちづくりに役立てるため、議会報告会（出前座談会）を開いている。申し込みがあればどの様な団体でも受けるが、実績的には主に要望があった自治会と開催しており、住民との意見交換方式で行っている。出向く議員は、5人1組で出席し、開催時間は概ね90分を目安としている。出席する住民は、自治会役員が多い状況であるとのこと。出された意見に対しては、町長及び議会が後日に文書で回答するとともに公表している。平成27年度は5箇所で開催した。

会議は、司会者が如何に上手く進行するかがポイントであり、そのためには事前準備が大事であるとのこと。司会者はテーマを所管する常任委員会の委員長が行っている。

◇ 委員所感

＜石岡実成 議会広報常任委員会副委員長＞

「風車と名探偵コナンにあえるまち」と題した鳥取県北栄町議会視察で一番印象に残ったのは、議会の積極的な情報公開と町民との意見交換会を開催している事でした。特に、ケーブルテレビを活用して、録画番組の放映を試みている部分と、議会出前座談会と称した、要望・苦情なんでも OK という意見交換会を実施しているという点は、当町議会には無い施策で、実際問題として、その会自体がきちんと運営出来ているのか、些か疑問に感じた所もありました。とは言え、見習うべき施策であることは間違いなく、葉山式に置き換えた、意見交換会の開催を模索する必要があると感じました。



＜畑中由喜子 議会運営委員会委員長＞

鳥取県北栄町は、誰もが知っている漫画「名探偵コナン」の原作者、青山剛昌氏の出身地で、道の駅から役場につながる「コナン通り」と名付けられた道には沢山のコナンや登場人物のオブジェに会える楽しい町です。また、自然エネルギーを取り入れ、町内には9基の風車が回っており、平成24年度の売電収入は4億2千万円に上るとのことです。

北栄町議会では、議会改革の取り組みおよび住民参加について、取り組み状況を伺いました。

北栄町議会では、開かれた議会を目指して、住民に情報提供し、積極的に

対話することに取り組んでおり、早稲田大学マニフェスト研究所の27年度町議会ランキングでは、全国総合で8位、中でも住民参加分野では全国2位の評価を受けているところです。平成21年に定めた議会基本条例では、議会報告会の開催等による住民参加と共に、議案審議に当たり、議員相互の自由闊達な討議によって町民への説明責任を果たすことを規定しています。

実際に、平成27年9月には、本会議において、合併に伴う庁舎統合に関する補正予算に対して、議員提案された修正案を巡り、多数の議員による討議が行われました。議長のお話では、多くの議員の発言を求めるため、指名したとのことでした。中には、討論のつもりで用意したものを意見として発言した議員もおられたとのこと。議員相互の自由討議に関しては、どこの議会でも、まだ試行の段階と思われます。

葉山町議会でも、議会改革の一環として、取り組むべき課題と考えますが、討議と討論の区別あるいは実施場所やタイミング等、今後、議論の余地があると思います。

<土佐洋子 議会運営委員会副委員長>

～風車と名探偵コナンにあえるまち～北栄町は「名探偵コナン」の作者 青山剛昌さんの出身地。視察前に鳥取県北栄町議会議長さんに町内を案内していただいた。

町の中にはいたるところにコナンがいる。お台場公園は広大できれいな天然芝。コナン通りを歩いて役場へ。全国で1番小さな鳥取県の中で3番目に小さな町。だけれど葉山町に比べたら3倍以上の面積、風力発電の売電収入が4億円強あり環境のまちづくりに充てている。

議会改革の取り組み、住民参加について伺う。

積極的な情報公開で議会報告会そして自治会、観光協会、老人クラブを対象に出前座談会も開催して参加者が増えているとのこと。



<横山すみ子委員>

北栄町議会は、議会だよりが平成 22 年、全国の広報コンクールで最優秀賞を受賞した議会で、議会改革も進んでいます。名探偵コナン君の銅像が並ぶコナン通りなどを、議長さんにご案内いただきながら議会へ向かいました。

～正しく・見やすく・読みやすく～の方針をもとに、積極的な情報公開の一つとして、議会だよりも編集されているとのこと。表紙から伝わってくるメッセージ、各ページの見出し等もシンプルで伝わりやすく、見習いたい部分でした。

視察の翌々日に震度 6 の大地震に見舞われた北栄町の皆さま、心からお見舞い申し上げます。

<鈴木道子委員>

北栄町は「風車と名探偵コナンにあえるまち」とのキャッチフレーズで、町中いたる所にモニュメントやブロンズパネルなど、コナンゆかりのものが点在しており、興味深く散策できる町の印象でした。観光とは、こういうものだ、一つの示唆を得た思いです。

鳥取県内 19 市町村の内 3 番目に小さい町でありながら、ご当地ならではの風力発電で 4 億 2 千万円(平成 27 年)の売電収入があり、自然エネルギーの活用が順調に機動している様子も伺えました。

議会改革に取り組むきっかけが「夕張の二の舞はダメ」とのこと、行政視察や住民アンケートなどを経て、平成 21 年に議会基本条例が制定されました。

一般質問は質問だけで 45 分とのこと、参考にすべき案件と考えます。積極的な情報公開をすべく、議会だよりは、「正しく・見やすく・読みやすく」をモットーにして、平成 22 年には全国広報コンクールで最優秀賞を受賞しました。住民参加のシリーズ企画など、まず手に取ってもらうこと目的は大変効果のあった企画だと拝見しました。

また、議会出前座談会についても様々伺いましたが、第一に、司会のリーダーシップが会の成否を握るとのご答弁は我が議会ならずとも、重要な視点であると再認識した思いでした。

<飯山直樹委員>

北栄町は人気アニメのコナンが誕生した町として、コナンを町活性化のシンボルとして掲げて活動している。街中にはコナンの記念館やモニュメント等が多数あり、スポットやアトラクションとして観光客を呼び込んで

いる。観光施策に積極的に取り組む姿勢は、葉山町としても見習うべき点が多いと感じた。

議会では目指す議会像として「住民参加」を標榜しており、議会への住民参加を積極的に促すとともに、いかにして住民参加を実現するか、長期にわたり試行錯誤を繰り返し形を作ってきている様子がかうかがえた。住民参加の方法としては、一般的な議会からの報告はもとより、議会として対処すべきいくつかのポイントごと、すなわち地域密着の課題、特定分野の課題を出前座談会や参考人制度などの方法により実現している。

また、町内会や特定組織・団体に属さない、一般住民が直接議会に疑似的に参加する方法もすでに取り入れようとしており、極めて先進的な印象を受けた。これらの方法は、議会が目指すべき住民参加の具体的方法を示していると言えるのではないだろうか。



<山田由美委員>

漫画「名探偵コナン」の作者、青山剛昌氏の故郷、北栄町を訪問しました。日本海に面した海辺の町で、まずは巨大な風車が出迎えてくれます。建設に28億円かかったそうですが、年間4億円以上の売電収入があるそうな

ので、十分に元が取れる計算です。砂地を利用したスイカやブドウ、ナガイモの栽培が盛んで、これからはイチゴにも力を入れるというお話でした。井上議長にご案内いただき、ブロンズ像のあるコナン通りやコナン駅、工夫のこらされた明るい図書館も見せていただきました。

北栄町議会が議会改革に取り組むきっかけは、「夕張の二の舞はダメ」という認識だったそうです。それから議会基本条例の制定や町民との意見交換会などを行い、議会広報誌にも工夫をこらし、平成22年には全国広報コンクールで最優秀賞を獲得。「分かりやすい広報誌」を目指し、街角インタビューも実行、まず「手に取って読んでもらうこと」が最優先という方針です。葉山町の議会だよりの場合は「記録性重視」という方針なので「読みやすさ」はその次になってしまいますが、このような編集方針も参考にすべきと感じました。

また、町民からの苦情や要望の中に大事な内容が含まれているということで、出前座談会を開いているとのこと。司会の技術など、色々と難しい点はあるものの、これは大いに真似するべきと思います。

<笠原俊一委員>

- 1 葉山の広報誌との大きな違いは、議案報告や委員会報告などに、横書きと写真の取り扱いが非常に上手なこと。
- 2 議員からの質問を分野別に整理し掲載している。
- 3 質問と答弁を的確に要約し、大きく写真を掲載している。

以上気づいたことを書きましたが、国への意見書等の要約については賛成ですが、一般質問の掲載方法等については、今後議論が必要と感じました。



<金崎ひさ委員>

鳥取県北栄町と大山町において私は議会運営委員の立場で視察をさせていただきました。大変お世話になった両町が地震被害に遭われており、心よりお見舞い申し上げます。

私はかねてより議会改革として本会議における議員間の自由討議を提案していましたが、システムの難しいとの判断で葉山町ではまだ実現されておられません。しかし、両町はそれを実践しているとのことで、大変興味深い視察となりました。

北栄町は本会議で議員が動議を提出し議員間討議を行っており、大山町ではテーマを決めて、定例会中に本会議場で理事者側は出席せず、議員間討議を行っているとのことでした。これらの良いところを取り入れながら、今後、本会議場が議員間の自由闊達な意見交換ができる場となるよう、葉山町議会独自の方式を考えたいと切に思って視察を終えました。

<伊東圭介委員>

北栄町は、平成 17 年 10 月に旧北条町と旧大栄町が合併して誕生した町です。県内でも有数の農業が盛んな町で、農産物の出荷量でも 1 位とのことでした。また、町直営で 9 基の風車による発電を行っており、売電収入は、4 億円を超えているそうです。町の活性化策としては、「名探偵コナン」の原作者、青山剛昌氏が旧大栄町出身であり、このブランドを生かしたまちづくりを展開していました。駅前からふるさと館を結ぶコナン通りには、ブロンズ像やレリーフが多く設置されていました。

議会改革については、「二元代表制の一役を担う議会が機能しているか？」という疑問がきっかけとなり、平成 21 年 3 月に議会基本条例が制定されたとのことでした。特に開かれた議会を目指し、積極的な情報公開に力を入れて行っていると感じました。そのきっかけとなったのは、平成 25 年度当初予算を否決したことによる議会の町民に対する説明責任が生じたことからだとの説明がありました。広報・広聴については、今後、参考になる点が多くありました。

視察させていただいた後の 10 月 21 日 14 時 7 分に鳥取県中部を震源とした最大震度 6 弱の地震が発生し、訪れた北栄町や倉吉市の国重要伝統的建造物群保存地区（白壁土蔵）にも大きな被害が相次いだことは残念です。一日も早い復旧・復興を願います。

2 大山町視察の概要（10月19日）

（1）大山町の概要

大山町は、鳥取県の西部に位置し、面積は189.83 km²、人口16,867人、5,721世帯（平成28年10月1日）の町である。平成17年3月に大山町、名和町、中山町が合併し大山町になった。

主な産業は、農業・畜産・漁業・観光であり、農畜産品としては、水稲のほか、ブロッコリー・白ねぎ・スイカ・二十世紀梨・日本茶・葉タバコ・生乳・豚のほか、最近ではブルーベリー等も生産している。

観光では、大山隠岐国立公園の中心となっており、大山寺や大神山神社などの神社仏閣や名所旧跡、またスキー場や登山道・散策コースなど多様な観光資源があり、日本海沿いに展開する山陰海岸線観光の中心地として、近隣観光地との連携を深めている。

（2）視察テーマ「議会改革について」

①議員討論会

議員の資質向上と開かれた議会の実践の場として、町の進むべき方向性や行政の課題について適宜テーマを設けて、予算・決算審議がない6月定例会と12月定例会において議員討論会を開催している。

議員討論会のテーマは、議会運営委員会が提案し、全員協議会で決定する。議員討論会を行う本会議場には、執行部は出席しない。

討論した議員への質疑は、時間の関係から今はしていないということである。なお、討論においては、結論を出さないそうである。

②議会テレビ放映等

議場での定例会、臨時会、討論会をケーブルテレビやユーチューブで生放映、録画放映を行っている。ただし、会議の全てを放映しているのではなく、議案審議など重要箇所だけの放映となっているそうである。この他、平成27年8月からフェイスブックも導入している。

（3）視察テーマ「議会だよりについて」

議会だよりの編集は、広報常任委員会委員6人の委員が中心となっており、委員会では、議会だよりの編集理念として①読んでみたくなる紙面にする、②住民目線で読みやすい内容にする、③議会

だよりにしかない情報を載せる、④会議録や活動報告ではなく情報誌にする、の4項目を定めて編集しており、町民に興味を持ってもらうこと、愛読して貰うことに重点を置いている。

毎号、定例議会の一般質問の通告締切りと同時に第1回の委員会を開催し、割付や、記事担当者決め等、32頁の紙面の構成を検討している。その後、4回の委員会をそれぞれ長時間かけて開催し、議会閉会の翌月末には発行できるよう編集している。

町民に議会をもっと身近に感じて貰うためには、まずは広報の充実であるとして議会だよりの編集に大きな力を入れているものであり、その結果として、第29回町村議会広報全国コンクール(平成26年度)で優秀賞(第2位)、第30回町村議会広報全国コンクール(平成27年度)で優秀賞(第3位)と2年連続で獲得している。

◇ 委員所感

＜窪田美樹 議会広報常任委員会委員長＞

これまで何度も議会広報全国コンクールで受賞している大山町。色々な場面で議会広報紙を拝見して、葉山の議会広報紙にはない魅力を感じました。

議会だよりを作成しても、町民の方に読んでもらえなければ、手に取ってもらわなければ議会の情報を得ていただく機会を減らしてしまいます。

大山町の紙面編集の理念に、*読んでみたくなる紙面

*住民目線での読みやすい

*議会だよりにしかない情報の発信

*報告誌ではなく情報誌に と

ありました。

報告誌ではなく情報誌という部分では、議会で審議した内容を全部掲載するのではなく、広報委員会の判断で抜粋し掲載するというもの。葉山町議会では、記録誌としての情報量を持った広報紙となっています。ゆえに、文字量がかなり多く、目を休めるために必要と思う余白がありません。町民の方に伝える情報を、時の委員会で決め伝える。そうなるとしたら葉山町の議会広報として大きな変更となり、すぐに変更できるものではない。と感じました。委員間で話し合っていくことが課題です。

しかし、レイアウトやタイトル使いなど、すぐに見習える部分も多く、次号より取り入れたところもありました。

編集している議員の生の声を聞き、編集作業での悩みを共有し意見交換が

でき今後の議会広報に役立つものと考えます。



<石岡実成 議会広報常任委員会副委員長>

町村議会広報全国コンクールで2位に輝いた鳥取県大山町議会の視察では、主に、議会広報の紙面づくりについてレクチャーを受けました。「読んでもらうための広報誌」を大前提に、これまでの固定概念を一新し、インパクトのある表紙、住民目線で読みやすい文章とレイアウト、会議録や活動報告ではなく、『情報誌』にするというテーマをコンセプトに、他には類を見ない斬新で独創的な紙面構成は、正に目からウロコの状態でしたし、参考にすべき点、見習うべき点が沢山あったように思います。

果たして、同じような広報紙に出来るかは、今後、多くの議論を重ねる必要があるとは思いますが、改革が必要な時期に差し掛かっているような気がします。

<畑中由喜子 議会運営委員会委員長>

鳥取県大山町は、人口約 17,000 人、高齢化率 36.9%の町です。3 町が合併した平成 17 年当時の議員数は 21 人でしたが、現在の議員定数は 16 人で、3 常任委員会の構成となっています。

大山町では、議会改革および議会だより編集の実施状況等を伺いました。議会改革の一環として取り組む、「議員討論会」の実施については、平成 24 年 6 月から始め、本年 6 月までに 7 回実施してきたとのことです。

実施方法は、会期中に日程を取る。テーマは議会運営委員会で抽出し、全

員協議会で練る。議員のみの討論で本会議場において行い、ケーブルテレビで中継する。発言時間は一人3分以内とし、他の議員の発言に対し、1分以内で意見を述べる事が出来る、というもの。

しかし、内容的には、意見発表の形となってしまうこと。また、討論結果のまとめには至っていないとのことでした。この取り組みは「討論」という手法を用いて、その時々テーマに関する、さまざまな考え方があることを提示するもの考えられます。

大山町議会では、このほかに議会報告会として「議員と語る会」の実施、ケーブルテレビ録画放送による各委員会の紹介、フェイスブックの開設等開かれた議会、情報提供に積極的に取り組まれておられます。

これまで、地方議会では、議員間の討論を行ってきませんでした。政策や課題に対する十分な検証ができる術を持たなかったことも大きな要因と考えます。討論の目的は、課題やテーマに関して、一定の方向性を見出すことにあるとも考えますので、今後、葉山町議会では、どのような取り組み方をしていくのか、その必要性についても、議論すべきと考えます。

議会だより編集について。

大山町議会の議会だよりは、27年度全国議会広報コンクールで2位を獲得する、実績のあるもので、しっかりとした編集の理念に基づいて、6人の議員による広報常任委員会で作成されています。どの号も、人目を引く表紙、読んでみたくなる紙面を体現しています。読みやすく、親しみやすい紙面を心がけるのは、基本であることに間違いはありませんが、同時に議会だよりは、議会で決めたことや取り上げたことをありのままに伝えること、公費(税金)を使った広報誌であることを踏まえなければならないと考えます。

葉山町議会の広報誌として、議会だよりがどうあるべきか。これまでの編集理念と新しい理念をどう組み合わせるか。大山町の議会だよりの編集理念に「ほかの議会だよりの模倣はしない」と述べてあるように、独自のものを追求していかなければならないとの想いをもちました。

いずれの議会でも、議長をはじめとして大勢の議員の方々が対応してくださいました。議員定数が減り、議員一人ひとりの対応範囲は広がるばかりです。議会が、力を発揮するために、ますます重要性を増してくるのが議会事務局体制であると思います。その部分も議会改革の大きな項目の一つと捉えるべきと考えます。

<土佐洋子 議会運営委員会副委員長>

鳥取県大山町議会に議会改革と議会だよりの視察。

私が広報の委員長をしていた数年前からずっと視察に来てみたいと思っていたところ。毎回のように「議会だより」が全国の広報のコンクールで入賞している。

- ・議員討論会を6月と12月に本会議場で開催している。

テーマを設けて議員1人ひとりが3分間で発言をして、それについて討論を行う。これについてはパフォーマンスにならないように気を付けなくてはならない。また議員報告会、議会 Facebook も活用している。

- ・議会だよりは読んでみたくなる紙面作りを目指している。

手に取ってみたくなるインパクトのある表紙写真が大事。広報の委員会が教育委員会の協力を得て、中学生に10年後の町についてのアンケートを行った。葉山町議会ではあれもこれも思いがちで文字がたくさん紙面となってしまうけれど、思い切ってポイントを絞り、町民のみなさまに見ていただける紙面作りが必要と感じる。

<横山すみ子委員>

議会だよりの研修で拝見して、衝撃を受けた大山町議会に研修に伺うことができました。わかりやすくピシッと決まった見出しの文章、印象的な写真の扱い、紙面構成の見やすさ、どれをとっても、凄いの一言。

いただいてきた何冊かの大山町議会だよりと「議会だよりだいせん編集の理念」を拝見して、どこか葉山の議会だよりに取り入れることができないか、反芻しています。迫力満点の広報正副委員長のご説明。ご説明いただいた3名の広報委員以外の方は、当日も原稿読み合わせ中とのことで、お忙しい中、親切に対応していただきました。

視察直後、鳥取を襲った大きな地震、心からお見舞い申し上げます。

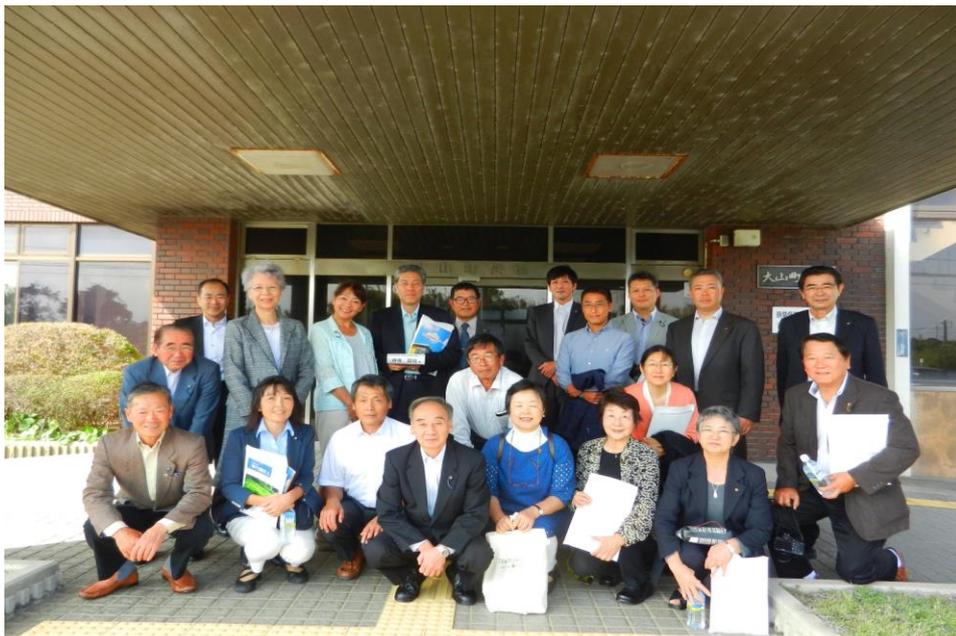
<鈴木道子委員>

議会だよりの目的が「議会への関心を高めること」と「住民が議会をチェックする材料にすること」と明白にうたわれておりました。

そしてその目的を達成するために、まず、読んだことがない住民に興味を持ってもらうこと、そして毎回読んでいる住民に愛読してもらうこと、と作業目的をも明確に打ち出していることが成功の秘訣の一つであると納得しました。特に、住民目線で読みやすい内容には簡潔な文章と余白がポイントで、高齢者が読み疲れないうことと、中学生でも理解できる内容にするとの二点は、早速に意識し実行すべきであると考えます。また、議会だよりにし

かない情報を載せること、つまり行政の広報と違う情報を載せ、他の議会だよりの模倣はしない、と決意のほどがうかがえる編集の理念でした。

言葉づかい表記も明記されており、後輩への通達項目として、必要であると思いました。ある年の顔写真掲載の表紙について、町民には好評であったものが、専門家には酷評されたところ、コンクール入賞したら好評に変わったとの興味深い話題も伺いました。目的がしっかりと定まっていれば、動揺することなく歩みを進められるのです。改めて、インパクトのある表紙づくりの難しさと重要さを学ばせて頂きました。



議会広報常任委員会の一員として、今回の視察で学ばせて頂いたことを実現できるよう、なお一層努力してまいります。

最後に、我々の視察後に地震に遭遇されたことに、お見舞いを申し上げますとともに、一日も早く力強く復興なさいますよう心からご祈念申し上げます。

<飯山直樹委員>

大山町は町村議会広報全国コンクールにおいて何度も賞を受賞しており、議会広報のエキスパート議会である。多くの住民に読んで頂けるよう、「読みたくなる」ことをモットーに紙面作りを心がけているとのことである。ビジュアルへの訴え、トピックとしての取り上げ方、インパクトのある表現方法、簡潔な伝達等々、一般的な雑誌感覚とまでは行かないまでも、それに準じた手法で作られており、まさに読みたくなる紙面に仕上がっている。特に参考にすべき点は、空白箇所の多さではないだろうか。大山町の議会だより作成委員の方々の話を聞く中で、このような議会だよりを作るための第一歩は固定観念を捨て去ることが、肝要ではないだろうかと感じた。

<山田由美委員>

大山町は、冬にスキー場になる大山と、豊富な漁獲を誇る日本海の間広がる、自然の豊かな町でした。役場のすぐ下にある漁港から見た海の美しさには、感動しました。これほど眺めのいい役場は、なかなかないと思います。人口は16,000人で、少子化や定住化が課題になっているのは、他の自治体と同じです。

この大山町議会では、議員討論会や「議員と語る会」の試みをしておられます。しかし、討論会といっても、15名の議員がそれぞれ意見を発表する場になってしまい、なかなか議員同士の討論にならない点が問題だそうです。何らかの結論を出すものでもありません。とはいえ、互いの考えを知る機会にはなっているということです。通常、議員は町側とは質疑応答をしますが、議員間の議論は（個別にはともかく）公式の場ではあまりないので、貴重な試みであると思います。なお、議員定数や議員報酬についての話し合いもあったそうですが、当面は現状維持でいくそうです。

フェイスブックの導入では、議会で共通の土台を作り、そこに各議員が記事を上げていくスタイルだそうです。葉山の場合は各議員が個別にブログやフェイスブックを利用していますので、真似できるかどうかわかりませんが、

望ましい取り組みだと思えます。

議会だよりについては「中学生に分かるように」という方針だそうで、これはぜひ見習いたいと思います。読んでもらうために、紙面に複数の町民に登場していただくというのも、必要な手段だと思えます。

写真もまた、有志の方が撮影したものを提供していただいているそうです。写真の公募は、葉山町議会でも試してみるべきかもしれません。

議会だよりが町の情報誌となることで、町の子どもたちに「町を愛してもらおう」効果が出ているようです。中3の生徒たちにアンケートした結果、町に残りたいという回答が増えたそうなので。A4より一回り大きなサイズであることも、見やすい紙面作りにつながっています。毎号、何かしら新しい試みをしているというのも、見習うべき大きなポイントだと感じました。

<待寺真司 委員>

毎年、町村議会広報全国コンクールにおいて、大変優秀な成績をおさめている、大山町を視察しました。まず、配布された議会だよりを並べて眺めました。表紙のインパクトが大変強くて、中身を読み進めたいくなる編集と素敵な人物写真が特徴です。インデックスも施されており、興味あるページを探しやすくしています。写真をふんだんに用いて、読み込むというより視覚にまず訴えている編集となっている点が、葉山と大きく違う点だと思います。見やすさだけを追求すると、本来の議会だよりが果たす役割が薄れてしまうので、その辺のバランスをいかに取っていくかが大きな課題であると再認識する視察となりました。多くの視察が訪れるため、「議会だより だいせん 編集の理念」をまとめあげて、大変わかりやすく工夫されている点は、大いに参考となり学ぶべき事が多い視察となりました。

<笠原俊一 委員>

- 1 葉山の広報誌との大きな違いは、議案報告や委員会報告などに、横書きと写真の取り扱いが非常に上手なこと。
- 2 質問と答弁を的確に要約し、大きく写真を掲載している。
- 3 基本一人1頁で、質問項目ごとに見出しがある。ただし、質問が1項目の場合は2人で1頁になっている。
- 4 表紙はフルカラー、中は2色刷りだが、写真がプロ級で良い。

以上気づいたことを書きましたが、国への意見書等の要約については賛成ですが、一般質問の掲載方法等については、今後議論が必要と感じました。

<伊東圭介 委員>

大山町は、平成 17 年 3 月に旧大山町、旧名和町、旧中山町の 3 町が対等合併により誕生した町です。主要産業は、農業であり中でもブランドとなっている「大山ブロッコリー」の一大拠点になっているそうです。水産業も盛んでワカメ、サザエ、ウニ等は、県内有数の水揚げ量を誇るそうです。

今回の視察のメインテーマである議会広報に関して、大山町議会の「議会だより だいせん」は、町村議会広報全国コンクールにおいて優秀賞等を受賞されています。その編集方針などを伺いました。話をまとめると 4 点あったと思います。①表紙にインパクトが必要（読んでみたくなる紙面）②住民目線で編集（難しい議会用語を使わない）③議会だよりにしかない情報を載せる（町広報紙等と重複しない）④情報誌的な紙面（本当に必要な部分だけ掲載）以上のことを参考に議会だよりの編集をしたいと思います。

もう一つ興味深い取り組みが年に 2 回開催されている「議員討論会」でした。テーマを決め、本会議場を使って各議員が持ち時間 3 分で討論するというものでした。実際には、意見表明の場になっているのが現状であるとのことでした。また、特に結論めいたものも出さないとのことでしたが、おもしろい取り組みだと思いました。その他にも参考になることがあり、有意義な視察でした。

以上、ご報告いたします。

平成 28 年 12 月 14 日

議会広報常任委員会

議会運営委員会